夜空彩る4千発に歓声

福知山HANABI 雨やみ多くの人が楽しむ

福知山HANABI2025（実行委員会主催）が11日、福知山市内の由良川河川敷で開かれた。降りしきっていた雨も打ち上げ本番の時間にはやみ、無料招待した中高生たちが短冊に夢を書いて貼り付けた一尺玉、大小の仕掛け花火など、昨年の2倍となる4千発が夜空を彩り、大勢の人が歓声を上げた。

色とりどりの花火が夜空を彩った（城山・猪崎城跡から）

別の官民組織が主催していた花火大会は2013年の露店爆発炎上事故以降、開催が見送られていたが、市内の若手経営者たちや福知山観光協会で作る実行委（芦田敦嗣会長）が、昨年から新しい形で再開。市も後援しており、外部有識者や市民で作る「花火大会検証会議」を設置し、事故防止対策などの検証を続けている。

今回は打ち上げ数を増やしたほか、有料観覧席も3千席から5千席に増やし、中高生333人を無料招待する取り組みも実施。当日は朝から雨のあいにくの天気だったが、花火開始前から御霊公園や広小路通りには多くの人が集まり、出店がにぎわった。有料観覧席は満員で、雨の影響で入場がやや遅れたため、打ち上げ時間をずらして大会が始まった。

事故の犠牲者への黙とうをささげた後、カウントダウンが始まり、色とりどりの花火が観客の顔を照らした。頭上いっぱいに広がる大迫力の一尺玉が弾けると、「おぉ」「大きい」などの歓声とともに拍手が湧き起こった。

家族や親せきと会場を訪れた修斉小5年の伊東輝哉君は「今年で2回目です。きれいで、いろんな色と種類の花火があって去年よりもすごかったです」と笑顔を見せた。

開始時間前に福知山踊り

大会では、花火の打ち上げ1時間前に広小路通りで福知山踊りが披露された。福知山踊振興会、米傳福踊会の会員たちが通りの中央に組まれたやぐらでの地方（じかた）演奏に合わせて息の合った踊りを見せ、会場に向かう人たちが足を止めて福知山の郷土芸能に見入っていた。

中には身振り手振りをしながら見守る人や、演奏に合わせて体を揺らして楽しむ人の姿もあった。

多くの人が福知山踊りに見入った

検証会議が現場回る 事件事故はなし

花火大会検証会議は花火大会を通じて、現地検証に取り組んだ。8人の委員のほか、市職員や花火大会実行委のメンバーたちが会場の検証やその補助を行った。

警備体制や混雑で危険な箇所が無いかをチェックしており、後日、委員の意見を集約する。今のところ、会場で大きな事件や事故はなかったとしている。

けさ、会場の清掃 ほとんどごみなく

福知山HANABI実行委員会は12日早朝、花火大会会場の河川敷、広小路通りなどで清掃活動に取り組んだ。実行委メンバーやボランティアが集まり、会場周辺に捨てられたごみなどを金ばさみで拾い、ごみ袋へとまとめた。

小雨が降る中、メンバーたちは落ちていた竹串、ビニール袋などを拾い集めたが、参加した実行委のメンバーは「昨年もそうでしたが、ごみをごみ箱に入れたり、持ち帰ったりされる方が多く、会場にはほとんどごみがありません」と喜んでいた。

事故の犠牲者へ祈り

実行委 伝承碑前で法要営む

福知山HANABI実行委員会は11日、2013年の花火大会で観客57人が死傷した露店爆発炎上事故のあった現場そばの堤防沿いに設置した伝承碑前で、法要を営んだ。実行委員やボランティアスタッフら約40人が参列し、犠牲者への祈りを捧げて線香と花を供えた。

伝承碑は「過去の事故を風化させない」との思いで、実行委が設置している。

花火の打ち上げ前に営まれた法要では、久昌寺の森俊彦住職が読経するなか、参列者が順番に手を合わせた。法要後には、一般の花火大会来場者向けに300本の献花を用意し、多くの人が犠牲者をしのんで参列した。

静かに手を合わせる実行委のメンバーら